



図書館から3つのお願い

1. 身分証明書の提出

入館時、図書館スタッフに身分証明書を提出し、帰る時に受け取ってください。

2. BYOD利用時

個人端末を使用する前に、申請書への記入が必要です。図書館スタッフに声をかけ、申請書を提出してから使用してください。



3. 高三、追い込みの時期

高三が大学受験にむけて真剣に勉強しています。他学年の生徒は、自分の数年後であることを意識して、静かに利用してください。



生徒による選書会のお知らせ

図書館で買う本は、図書館スタッフが選ぶと同時に、生徒のみなさんや教職員からのリクエストを取り入れて決めています。

今回、出版社の協力により、本の見本を持ってきてもらい、生徒・教職員に選んでもらうことになりました。

図書委員はもちろん、それ以外の生徒も、「この本は買ったほうがよい」と思うものを選んでください。

日程 10月14日(水)～21日(水)

場所 図書館・平机

方法 「これは図書館に入れたい」と思う本に付箋を貼ります。



昨年の選書会の様子

回転書棚を寄贈していただきました

今年の3月に卒業した代の保護者から、卒業記念品として、回転書棚4個と平机の仕切りを寄贈していただきました。「図書館のために使ってください」と言われた予算の中から、今、必要なものを考えて、この二品にさせていただきました。

長く、大切に使用させていただきます。

◎教職員のリレーエッセイ◎ 第79回

事務室 庶務担当 平澤千映子さん

繁体字という文化

「わーっ、美味しそう！ 食べたい」友人がインスタに投稿したのは、乾意麵の写真だ。乾意麵とは汁無し麵のことで、これは一杯40元、日本円で約160円だ。看板もないこの店は、昼時にもなると近くで働く人達で満席になる。究極のB級グルメだ。彼女は台北に住んでいた時に知り合った友達で、御主人の2度目の台北赴任で現在も住んでいる。今は自由に行き来できないが、彼女のインスタを見ては、今度台湾に行ったらあれを食べてあそこに行つてと考えを巡らせている。

桃園空港からタクシーに乗って、高速を下りて台北市内に入ると、真っ先に漢字の看板が眼に入ってくる。埃っぽく、ごちゃごちゃした街、そしていたる所に漢字、漢字、また漢字。

台湾で使われている漢字は「繁体字」で、日本の旧字体に近いと言われている。中国語には、もう一つ中国（大陸）で使われている簡体字があり、日本の漢字を合わせると全部で3種類だ。日本語には平仮名やカタカナがあるが、中国語ではすべてを漢字で表記する。外来語や外国人の名前は、発音からだったり、意味からだったり、適当に漢字を当てはめているようだ。

例えば、スターバックスは「星巴克」、ケンタッキーは「肯德基」、モスバーガーは「摩斯漢堡」というように。

住み始めた頃は、繁体字にちょっと圧迫感も抱いたが、発音がわかるようになると「何でこの漢字を当てはめたのか」を考えながら漢字を見るのも結構楽しくなる。トランプ大統領は「川普」、メルケル首相は「梅克爾」、あれ？ プーチン大統領は「普丁」(pu ding)なのに、プリンは「布丁」(bu ding)。私だったらプリンを普丁にするかなあ…。同じ漢字でも日本語とは意味が違う物もあり、面白い。「猪」と書くけど「豚」の事で、じゃあイノシシはというと「野猪」と書く。「羊肉」と書いてあっても、山羊の肉を指していることも多く、日本でいう羊は「綿羊」で、綿羊も山羊も、どちらも羊と考えるらしい。「走」は歩くという意味で、「勉強」に至っては全く意味が違って、動詞の場合は「無理に～させる」という意味で使う。

台湾の市場で「斤」という単位を良く使うが、日本では食パンを数える時に使う、あの「斤」が、台湾では「約600g」の意味で使う。「一斤300元」と書いてあれば「600g300元」のことである。同じく重さの単位であり、「100g」を意味する「公克」は、あまり使われていない。「100公克50元」と書いた方が分かり易い気もするが、これが伝統というものなのだろう。1斤だと多すぎる時は前に「半」をつけて「半斤」とする。「300g」だったら、一般家庭でも使いやすい単位だ。

中国と台湾でも使い方に違いがあるが、その中でもよく言われるのがパンダだ。中国では「熊猫」と言うが台湾では「貓熊」という。中国語の授業でも、これをテーマに討論した事があるが、当時私は猫熊を支持したように思う。

現在繁体字が使われているのは、台湾、香港、マカオ、そして華僑の人々の間でだが、台湾人にとってはもはや単なる文字というだけでなく、生活の一部であり、文化であるといえよう。

国際情勢が日々変化する中で、果たして彼らは、この文化をずっと守る事ができるのか…。私が心配しても仕方がないことだが、できれば後世まで残してほしいと願うばかりである。

そして、もし台湾に行く機会があったら、是非、繁体字のディープな世界を楽しんで欲しい。よく見ると、街には、日本ではなかなか、お目にかかれない素敵な字で溢れている。

これを書きながら、私にはいくら練習しても上手くかけない字があることを思い出した。

それは、「龜」(カメ)。もう一度練習してみようかなあ…。

庶務のお仕事

平澤さんは、事務室の窓口の近い席に座っていて、電話や来客の対応をされています。一言で「電話」といっても、保護者からの欠席・遅刻連絡や、先生への問い合わせ、業者さんからの連絡、受験生からの説明会参加希望など、さまざまな用件の電話がかかっています。平澤さんは、それらすべての電話を受け止め、関係者につなぎます。来客の対応も同様で、在校生だけでなく、卒業生や、出版社・書店・大学広報、郵便局や宅配業者、修理業者など、多くの方が受付に来られます。

ビジネスの世界では、「第一印象がその団体の評価を決める」と言われることから、平澤さんは「学校の顔」とも言えるでしょう。「先生たちが少しでも余裕を持ってもらえるよう、『自分ができることはする』をモットーにしています」というお話でした。